

4 かなりそう思う	3 どちらかと言えばそう思う
2 どちらかと言えばそう思わない	1 全くそう思わない

	No.	学校教育目標等の評価項目	令和4年度		令和5年度	
			前期	後期	前期	後期
学校教育目標 向かって 知・徳・体 の調和がとれ、 夢や目標に チャレンジする生徒の育成	主体的に学ぶ生徒	1 授業の学習内容を理解している。	2.6	2.8	2.8	2.7
		2 主体的に課題を見つけ、自らの方法や手段で解決しようとしている。	2.5	2.3	2.4	2.6
		3 家庭学習が習慣化していて、計画的に学習を進めている。	2.1	2.1	2.3	2.1
	思いやりのある生徒	4 自ら進んで挨拶ができる。	3.2	3.2	3.1	3.1
		5 相手の立場に立って考え、相手を気遣うような発言や行動をしている。	2.8	2.9	2.5	2.3
		6 誰に対しても分け隔てなく優しく接している。	3.1	3.1	2.8	2.9
	健康でたくましい生徒	7 基本的な生活習慣が身に付いている。	2.8	2.9	2.8	2.7
		8 善悪を正しく判断して行動することができる。	2.9	2.8	2.6	2.6
		9 体力の向上に向けて、積極的に運動に取り組んでいる。	3.2	3.0	3.1	3.1
	夢や目標に向かってチャレンジする生徒	10 向上心と強い意志をもち、何事にも最後までやり抜こうとしている。	2.7	2.4	2.8	2.6
		11 学校・学年行事等、何事にも積極的に参加している。	3.7	3.4	3.6	3.5
		12 自分自身の将来の夢をもち、その実現に向けて努力している。	2.5	2.5	2.3	2.4

・【教師用】令和4年度と比較したとき、『主体的に学ぶ生徒』(No1～No3)という枠組みで平均値を取ると、昨年度から0.2ポイントの上昇が見られる。No.2の「主体的に課題を見つけ、自らの方法や手段で解決しようとしている。」という項目で上昇している。教師が授業の中で、主体的に学ぶことができるよう工夫していることが要因と考えられる。

・【教師用】No.5「相手の立場に立って考え、相手を気遣うような発言や行動をしている。」、No.6「誰に対しても分け隔てなく優しく接している。」、No.8「善悪を正しく判断して行動することができる。」の項目では、昨年度や前期と比較しても、下落している。特にNo.5「相手の立場に立って考え、相手を気遣うような発言や行動をしている。」の項目において、著しく下落している。他者理解を深めるための構成的グループエンカウンターやコミュニケーション能力の育成等、教育活動全体で道徳的な部分に重点を置く必要性ある。

・【教師用】『夢や目標に向かってチャレンジする生徒』(No.10～No.12)という枠組みで見ると、昨年度から0.2ポイントの上昇が見られる。ただ、目標や夢を抱きつつも、その実現に努力しているわけではないという部分が課題として残るため、各学年におけるキャリア教育の取組を検討していかなければならない。

・【保護者用】、【生徒用】調査結果の全体を見ると、共に昨年度と比較しても大きな変化はない。

・例年ポイントが低いのが、【保護者用】重点目標No.5「学校のホームページをよく見ている。」についてである。すぐー等の運用もあり、改めてホームページを確認するまでに至らないのも一つであると考えられる。

・【保護者用】実践・意識調査No.3「家では、決まった時間や時刻に勉強する姿が見られますか。」では、生徒・保護者共に例年低い結果である。家庭学習に取り組めるよう、小学校とも連携しながら、具体的に指導していく必要がある。